

# 韓国交流のあゆみ

## (3) 姉妹校交流の呼びかけ

文化交流のなかで、韓国の半月（パンノル）国民学校（現在名は半月初等学校）と鳴浜小学校の間に姉妹校交流の約束がかわされ、子供たちの作品の交換や、校長先生同士の手紙のやりとりなどが始まりました。さらに、子供たちの熱心なハングルへの取り組みや、地域の関心の盛り上がりを受けて、翌年度のPTA組織のなかにこの交流をさらに発展させ、深めていこうとする動きがでてきました。この交流を通じて、「子供たちが日韓の正しい歴史を学び、世界を見ることの出来る子供を育てたい」という学校側の目標に共鳴し、交流を地域活動とすることで、子供たちの日韓交流の下地を強化し、将来に継続させてゆく力になろうという発想でした。

鳴浜小学校から半月国民学校に向けて、姉妹校交流をPTA活動を含めた交流に発展させようという呼びかけが始まりました。しかし、何度か手紙のやりとりをしましたが、韓国側の事情は日本と違って簡単ではないという返事が返ってくるばかりでした。鳴浜小学校PTAではこの交流が発展してゆく意義を確信して、90年10月には姉妹校交流委員会準備室を発足させてました。この準備室からの第1回目の呼びかけの内容は、「子供たちの交流がより良いものに成長するように、PTAがその土壌づくりをしましょう」というものでした。

この呼びかけに、韓国側から大きな反応がありました。半月国民学校の鄭雲弼（チョウ ウンピル）校長先生から、「今までの消極的な姿勢を反省し、子供たちのために本気で交流をはじめよう」という誠意に満ちた手紙をいただき、いよいよPTA同士の交流が始まることになりました。

この時までの姉妹校交流は文化交流の際にかわされた口頭での約束でしたが、文書を交換して、この交流を正式なものにしようということになり、91年3月には鳴浜小学校を会場にして、姉妹校結縁文書の交換式を行いました。韓国側から、李健雨（イ コン ウ）半月国民学校総同窓会長を代表とする10人余りの代表団を迎え、鳴浜小学校側からは学校関係者のほか町長、教育長にも出席してもらい、姉妹校結縁文書の交換と記念植樹をしました。また、この交流は、鳴浜小学校だけの交流ではなく、成東町の国際交流事業の先駆けとして期待をも持たれるようになりました。

その後、成東町の国際交流における予算対象にもなり、翌年度には、鳴浜小学校PTAを中心に、成東町から韓国を訪問する運びとなりました。



記念植樹の様子